



消防学校 ニュース

平成30年8月6日発行

消防職員特別教育 水難救助科 (第26期)

平成30年7月23日(月)
～ 8月3日(金)



平成30年7月23日、県内12の消防本部から26名の消防職員が水難救助科第26期生として本校へ入校しました。

全長500kmの海岸線、大小多くの河川を有する本県では、水難救助業務は重要です。平成29年の都道府県別水難事故発生状況では、本県での発生件数は56件、沖縄県、北海道、新潟県に次いで全国で4番目に多く、水難者総数74人、そのうち20人が亡くなっています。



担当教官
永田 佳寛
主査



また、水難救助は二次災害の危険性が高い活動と言われており、昨年7月には、滋賀県で、救助のスペシャリストと言われていた37歳の消防職員が、急流河川での水難事故に備える救助訓練の準備中、川に流され死亡するという大変痛ましい事故も発生しています。

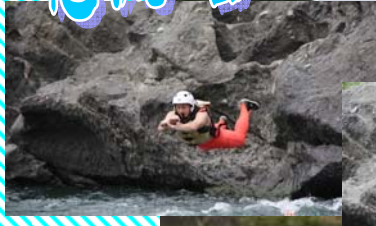
このような事態も踏まえ、安全管理を徹底した上で、本課程では学校プール、校外の河川、海洋での基礎から応用、そして総合訓練と、より実践的な訓練を実施することとしています。

水難救助科第26期カリキュラム 教育日数10日間 教育時間70時間

月	日	曜	第1時限	第2時限	第3時限	第4時限	第5時限	第6時限	第7時限	備考		
			9:00～11:50 (月曜日9:20～12:10)			13:00～16:50 (月曜日13:20～17:10)						
7	23	月	入校式 担当教官	オリエンテーション 担当教官	潜水安全管理・潜水理論 有限会社 ダイビングベル					消防学校		
	24	火	水難救助対策 有限会社 木成 (NATURAL ACTION outdoor tours)								消防学校	
	25	水	基本・応用訓練(消防学校) 有限会社 木成 (NATURAL ACTION outdoor tours)		基本・応用訓練(河川・富士川)						AM:消防学校 PM:富士川	
	26	木	総合訓練(河川・富士川) 有限会社 木成 (NATURAL ACTION outdoor tours)								富士川	
	27	金	気圧障害 静岡済生会総合病院 病院長 石山 純三	効果測定 有限会社 木成 (NATURAL ACTION outdoor tours)	スキンドайビング 有限会社 ダイビングベル							【通常点検】 消防学校
	28	土	第1週の富士川における急流救助訓練では、「ナチュラル アクション アウトドア ツアーズ」の佐野講師より、「スイフトウォーターレスキューの15の絶対原則」を念頭に、富士川の自然の中で2日間にわたり、そのノウハウを学び、入校生全員が『レスキュースリー・スイフトウォーターレスキューテクニシャン』に認定されました。									
	29	日										
8	30	月	スクーバダイビング 有限会社 ダイビングベル								消防学校	
	31	火	スクーバダイビング 有限会社 ダイビングベル・静岡市消防局								消防学校 【通常点検】	
	1	水	応用訓練(海洋・三保) 有限会社 ダイビングベル・静岡市消防局								清水港 三保海水浴場	
8	2	木	総合訓練(海洋・用宗) 有限会社 ダイビングベル・静岡市消防局・静岡県防災航空隊								用宗漁港	
	3	金	清掃 担当教官	潜水計画立案 有限会社 ダイビングベル	潜水安全管理 静岡市消防局		修了式 担当教官			消防学校		



急流 富士川に挑む!



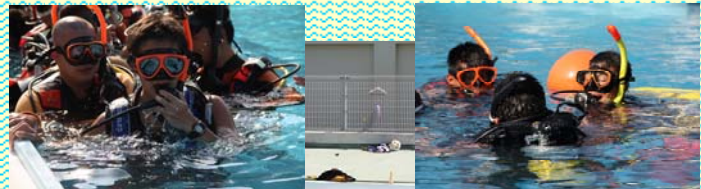
様々な場面での
救助法を学ぶ



心をひとつに!



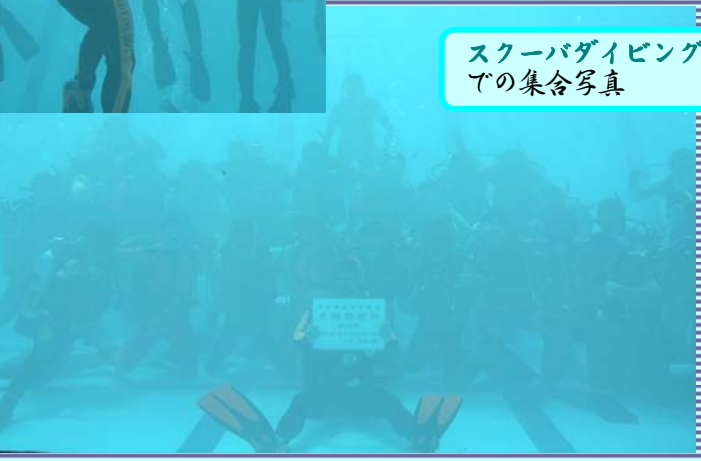
高温プール(30度超)にも耐え
スキンドайビング&スクーバダイビング
基礎を修得!



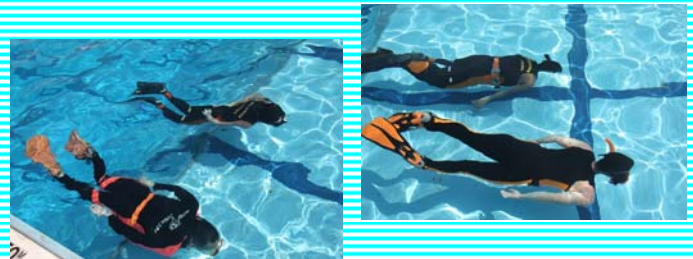
各種エントリー法
を修得



常にバディ(二人一組)で行動し互いの安全を確認する



スクーバダイビング
での集合写真



スキンドайビング
での集合写真



海洋人



浮力、視界、海洋生物—
プールにはない条件に
気も引き締まる



三保海水浴場



静岡県防災航空隊との合同訓練



用宗漁港



修了式



7月、8月はまさに本格的に“水に親むシーズン”。特に8月は水難事故が最も多く発生する時期のため、水難事故防止の取組を強化している時期でもあります。しかしながら、水難事故は後を絶たないというのが厳しい現実です。

このような状況の中で、水難救助科第26期生の皆さんはそれぞれ所属へと戻られます。厳しい水難救助科を修了した、その期待と信頼に応えるべく、常に自分自身を研鑽し、実践的な救助技術の習得に努めてほしいと思います。水難救助のプロとして、また将来の指導者として、県内各地域で活躍されるよう、大いに期待しています。

初任科の頁に入る前に…

「17メートル」の高さって…!?



真下を見下ろすと…
2m×3mの大きさの安全マットが
とても小さく見えます。

初任科生たちが救助訓練の一環
として訓練塔を使って 17mの高さ
からの降下訓練を行います。
いつもはその様子を見上げるだけ
ですが、“どのくらい高いのだろう”
と、その高さを検証してみることに
しました。高さ17メートル地点から
の景色は…。



屋外訓練場(グラウンド)を見
下ろします。
海岸辺りまで見渡せます。



↑管理教育棟を見下ろします。
いつもとは逆の視界です。
しかし、大半の初任科生は恐怖心
から、普段見ることのない風景をゆ
っくり眺める余裕はありません。

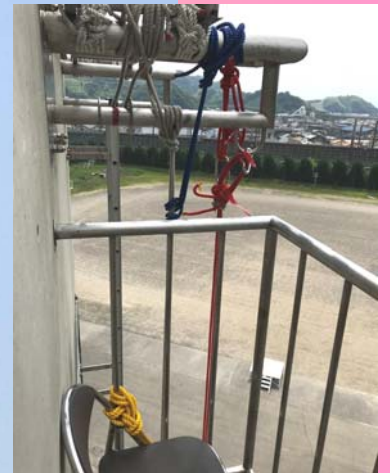


訓練塔

- 「17mの高さ」とは
- ① ビルの4階と同じ高さ
 - ② 等身大のガンダムと同じ高さ

高さ 17m

初任科生の中には
「本当にロープが解けたりしな
いですか？」と真剣に質問し
てくる者もいます。



高さを感じ、どうしてもロープを握る
手に力が入ってしまいます。
「左手の力を抜け！」という教官の
声が何度も聞こえてきます。



ただ今降下中…です

↑
この写真は本年度初任科の
実科訓練の様子です

救助訓練担当教官により、訓練準
備を兼ねて17メートル地点からの降
下を実施してもらいました。

教官は言います。
「消防士はロープが1本あれば、『登
る・降りる・渡る・運ぶ』など、様々
な活動ができます。日本独自の技術
です。この技術を誇りに思い、一つひ
つ一つの技術向上に努めてほしいと思
います。」



準備よし 降下スタート



降下完了…



7月20日(金) 浜松市消防局

井口 慎二 東消防署長、大林 幹夫 北消防署長 のお二人にお越しいただきました。
お忙しいところ、初任科生への温かい励ましを頂戴し、本当にありがとうございました。



初任科 第89期

浜松市消防局の激励(訓練視察)に合わせて、初任科生の実科訓練の様子を御案内します。



初任科生、こんな時間もあってイイよね...

毛筆



7/25
~7/27

手話



皆上手なのです



英語

最新型救助工作車 『地震防災センター』に

登場!



県民の日



平成 30 年 8 月 5 日 (日)、静岡県地震防災センター (静岡市葵区駒形通) において『県民の日』イベント「こども地震防災教室」を開催するに当たり、センター所長から本校へ協力依頼があり、最新の救助工作車両を展示することになりました。



公道を走って移動です



車両展示を見に来る家族連れの皆さんには、車両乗車体験 (写真撮り放題) や空気呼吸器の装着体験を楽しんでもらいました。

今回の展示は、本校教官の酒井良憲主査と松尾晋明主査の二人が担当しました。

熱心な子供たち、お母さんが多く、消防広報マンのサービスにも力が入りました。



編集・発行/ 静岡県消防学校 〒424-0211 静岡市清水区谷津町 1-577-1

☎ 054-369-1190 FAX: 054-369-1197 E-mail: fd-school-somu@pref.shizuoka.lg.jp

★「消防学校ニュース」は静岡県ホームページの消防学校の案内・紹介のところに掲載しています。過去の分を含め、どうぞ御覧ください。

静岡県消防学校

検索

